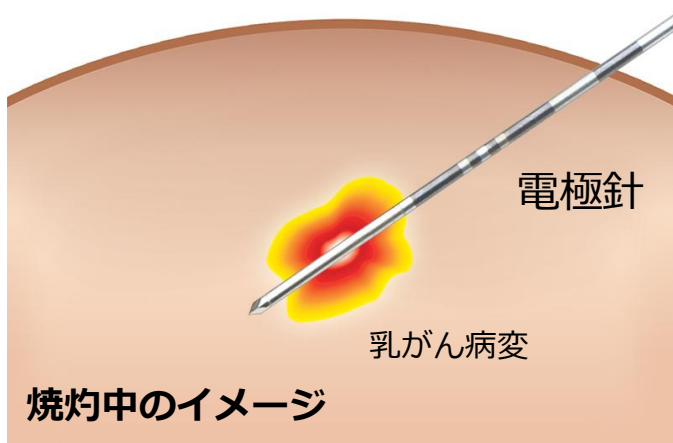
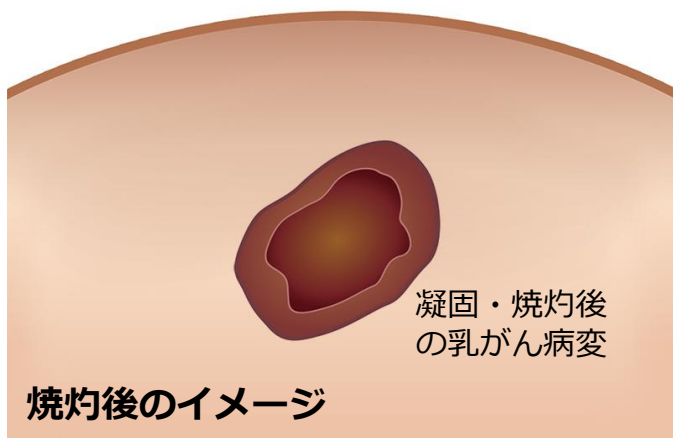


早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法

RFA (radiofrequency ablation therapy)



電極針を腫瘍の内部に挿入し、ラジオ波帯(約472KHz)の電流を流すことで生じる**熱**により、乳がん病変組織等を凝固・焼灼させる治療法です。



手術(切除)をせずに乳がんを治療することができます。

ラジオ波焼灼療法の適応となる方

腫瘍径1.5cm以下、腋窩リンパ節転移や遠隔転移を認めない
限局性早期乳がんの方が対象になります

- 針生検で通常型の原発性乳管癌であることが分かっている
- 腫瘍の大きさが1.5cm 以下の限局性病変である（石灰化などは×）
- がんによる皮膚のひきつれなどが無い
- 術前の診断で腋窩リンパ節への転移がない
- 今回の乳がんに対する前治療（化学療法・ホルモン療法・放射線治療など）はしていない
- 温存乳房に対する放射線治療を行うことができる

これらのすべてを満たすことが条件です

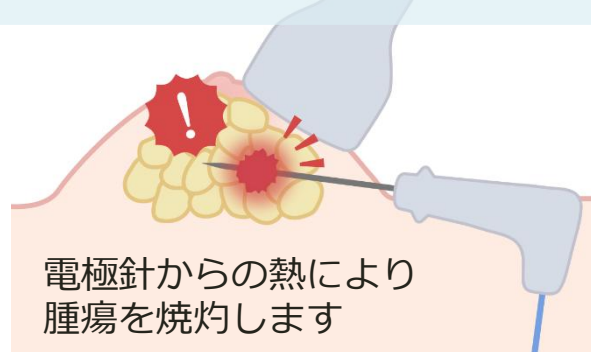
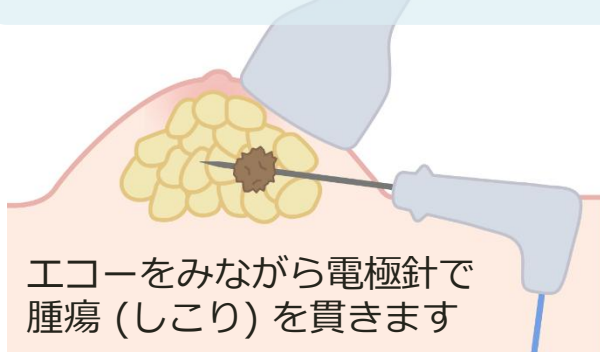
そのほかにも基準がありますので、気になる点があれば担当医にご確認ください。

治療の方法

通常の乳房切除をする手術と同様に、手術室で全身麻酔で行います

- ①まず、センチネルリンパ節生検を行います。
- ②エコーで病変を確認し、皮膚に1～2mmの切開を加え、電極針を腫瘍の中心部を貫くように進めます
- ③やけどを防ぐため、腫瘍と皮膚や筋肉の間にブドウ糖液の注入します。
- ④針がきちんと腫瘍に刺さっていることを確認してから、熱を加えていきます。通常、熱を加える時間は5～10分程度ですが、長時間かかる場合もあります。
- ⑤がん細胞が壊死するとされる70℃以上まで温度が上昇したことを確認し電極針を抜きます。

手術中と手術後は、乳房の皮膚のやけどを防ぐため、冷凍パックで皮膚を覆って冷やします（治療日は一晩、冷凍パックで冷やします）



治療後の経過

ラジオ波焼灼療法を受けられた方は、以下の検査/治療が必要です

ラジオ波後
約1か月

放射線治療

温存乳房内の再発を予防するために放射線治療が必要です。
4-5週間（16-25回）週5回毎日通院で行います。

放射線後
約3か月

局所麻酔下 乳房組織生検

乳房造影MRI検査/乳腺エコー検査

ラジオ波で焼灼した部位に、乳がんの残存がないかどうかを確認します
画像所見を参考に局所麻酔下で乳房組織生検を行います。

**検査の結果、乳がんの遺残が疑われる場合には
全身麻酔下に追加切除術（乳房切除もしくは温存術）が必要です**

* 追加切除術が必要となる頻度はラジオ波焼灼療法施行例のうち約4%程度です

術後
年に1回

乳房造影MRI検査

乳房内の再発を確認するため、乳房造影MRIを1年に1回受けることが
勧められています（通常の手術後の場合は行いません）